

## —サフラン—



学名 : *Crocus sativus* L.

科名 : アヤメ科 (Iridaceae)

属名 : クロッカス属 (Crocus)

原産地 : 西アジア。今日ではスペイン、フランスなどの地中海沿岸からトルコ、インド、中国などで栽培されている。

形態 : 球根性の多年生植物。草丈は 20cm ほど、葉は線形、主脈が白色が目立つ。花は淡紫色で筒状の花冠が 6 つに深裂し、3 分裂した赤い柱頭をもつ。開花は年 1 回、11 月ごろで期間は約 2 週間。

成分 : crocin,  $\alpha$ -,  $\beta$ -,  $\gamma$ -carotene, lycopene, zeaxanthin (色素成分), picrocrocin (苦味成分) など  
picrocrocin  $\rightarrow$  D-glucose + safranal (芳香成分)  
その他 150 以上の揮発性の芳香族化合物を含む

用途 : 鎮静剤、去痰剤、媚薬として用いられる。歯茎の痛み、消化不良、心臓や肺の疾患、天然痘、風邪、腎結石、アルコール依存症、痙攣、不眠症、糖尿病、喘息、うつ病などに処方された。

使用部位 : 雌ずいの柱頭

現在では疼痛や炎症を緩和する強力な抗酸化作用があることがわかっている。また、血圧を下げ、心臓を強くし、月経の痛みやうつ症状を和らげ、アルツハイマーや癌の進行を遅らせる可能性も示唆されている

### 参考文献

岩井和夫、中谷延二、第 2 章香辛料の香気成分、色素成分とその利用、「香辛料成分の食品機能」 光生館 p56, 57

ナンシー・J・ハジェスキー、第 5 章セイボリースパイス、「ハーブ&スパイス大事典」、NATIONAL GEOGRAPHIC, p260, 261

E.Steinegger, R.Hänsel, X 精油、樹脂、バルサム

奥田拓男, IX 種子植物門, 「最新 薬用植物学」, 廣川書店, p198

2017.11.28 4YM EK